

問1	古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりを説明する記述として、最も正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）			
	1. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。	2. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。	3. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	4. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。
問2	4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、漢字や儒教、仏教などの大陸文化や、優れた製作技術を伝えた人々を何と呼びますか。（2021年 島根県公立入試 類似）			
	1. 御家人	2. 防人	3. 渡来人	4. 遣隋使
問3	4世紀から7世紀頃、多くの人々が大陸から日本列島へ移住した歴史的背景と、その後の影響についての説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 島根県公立入試 類似）			
	1. モンゴル帝国の侵攻に対抗するため、日本列島から朝鮮半島へ軍事技術を持った集団が移住し、防御を固めた。	2. 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術が必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。	3. シルクロードを経由した東西貿易を活発にするため、唐の皇帝が日本の平安京へ大規模な商人の集団を派遣した。	4. 律令制度を確立した日本が、地方の豪族を管理するために大陸から役人を大量に雇用し、全国各地に配置した。
問4	古墳時代において、特定の地域に限定されず、全国各地で大規模な前方後円墳が築造されたという事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。（2018年 大分県公立入試 類似）			
	1. 狩猟・採集中心の社会から、稲作を中心とする平等な共同体へと社会が変化したこと。	2. 各地の豪族が、大陸から伝わった最新の墓制を競い合うようにして独自に導入したこと。	3. 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	4. 仏教の影響が全国に及び、共通の儀礼に基づいた埋葬方法が庶民にまで普及したこと。
問5	5世紀頃、ヤマト政権の王が中国の南朝へ使いを送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）			
	1. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	2. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため	3. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため	4. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため
問6	古墳時代において、近畿地方から始まったとされる前方後円墳が、後に徳島県や香川県など近畿以外の地域でも築かれるようになりました。この「前方後円墳」が普及した主な要因として、当時の政治体制の仕組みから説明したものとして適切なものはどれですか。（2023年 愛知県公立入試 類似）			
	1. 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため	2. 班田収授法によって、全国の農民が等しく古墳を築く権利を認められたため	3. 大和政権が全国に国司を派遣し、地方の文化をすべて近畿のものに統一する政策をとったため	4. 地方の豪族が大和政権に対抗するために、あえて近畿とは異なる独自の形式の古墳を築いたため
問7	大阪府の百舌鳥・古市古墳群に含まれる、三重の濠が巡らされた日本最大の前方後円墳の名称と、それが登録されているユネスコの区分の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。（2020年 群馬県公立入試 類似）			
	1. 五色塚古墳（世界文化遺産）	2. 箸墓古墳（世界文化遺産）	3. 大仙古墳（世界文化遺産）	4. 大仙古墳（世界自然遺産）
問8	5世紀の倭の王が、中国の歴史書である『宋書』倭国伝において「高句麗が道をふさぎ、邪魔をしています」と皇帝に訴え、「安東大將軍」などの高い称号を得ようとした主な目的として最も適切なものはどれですか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）			
	1. 朝鮮半島南部から鉄資源を安定的に輸入するための、独占的な貿易許可を得るため	2. 中国から金銅の仏像を輸入し、日本国内に仏教を広めるための権威を得るため	3. 中国の律令制度を導入し、氏姓制度を廃止して国内の中央集権化を進めるため	4. 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、国際的な優位に立つため
問9	3世紀後半から奈良盆地を中心に成立したヤマト政権において、各地の有力な豪族を従えて中心となった指導者が当時名乗っていた称号として、適切なものはどれですか。（2026年 和歌山県公立入試 類似）			
	1. 天皇	2. 將軍	3. 執権	4. 大王
問10	古墳時代の日本列島において、大陸から移住した渡来人が果たした役割と、彼らがもたらした文化的影響について述べた文として正しいものを次の中から選びなさい。（2019年 岡山県公立入試 類似）			
	1. 稲作の技術を初めて伝え、狩猟・採集中心の縄文文化から弥生文化への転換を促した。	2. 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。	3. 青銅器を用いた祭祀の道具を伝え、卑弥呼が統治する邪馬台国の成立を助けた。	4. 鉄砲の伝来に寄与し、戦国大名の戦い方や城の構造に劇的な変化をもたらした。
問11	5世紀、ヤマト政権の王たちは「倭の五王」として中国の南朝に相次いで使者を送りました。当時の王たちが、朝鮮半島での軍事的な立場を有利にしたり、国内の支配体制を安定させたりするために、中国の皇帝から得ようとしたものは何ですか。（2024年 大阪府公立入試 類似）			
	1. 律令制度を導入するための法典や教本	2. 遣隋使や遣唐使を派遣するための正式な国交	3. 仏教を正式な国教とするための許可	4. 自らの地位や権威を証明する称号
問12	5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれているとされる遺物はどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）			
	1. 近畿地方で多く見つかった銅鐸	2. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	3. 装飾が施された石包丁	4. 漢の皇帝から授けられたとされる金印

答え合わせ・解説

問1	答え 3 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県 <small>の</small> 稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）と、熊本県 <small>の</small> 江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。
問2	答え 3 渡来人	朝鮮半島での動乱などを背景に、優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ渡ってきました。彼らは大和政権に仕え、文字（漢字）の記録や外交、土木技術、金属工芸などの分野で重要な役割を果たし、日本の古代国家形成に大きな影響を与えました。
問3	答え 2 朝鮮半島の動乱を逃れた人々や、大陸の先進技術を必要とした大和政権に招かれた人々が、漢字や仏教などを伝えた。	当時の朝鮮半島は高句麗・百済・新羅が勢力を争う激動期にありました。戦乱を避ける目的や、高度な文化・技術を吸収したい大和政権の要請によって移住が促進され、伝えられた文化は後の飛鳥文化などの発展に大きく寄与しました。
問4	答え 3 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問5	答え 1 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ遣使し、朝鮮半島南部での軍事的な優位性を認めさせることで、当時日本国内で産出できなかった鉄資源を安定して入手しようとしていました。これにより、強力な武器や効率的な農具を生産し、半島諸国や国内の豪族に対して政治的な優位を保つ狙いがありました。
問6	答え 1 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を作ったため	前方後円墳の広まりは、大和政権を中心とした政治的な秩序が形成されていたことを裏付けています。地方の豪族は大和政権から認められることで自らの支配権を正当化し、その象徴として大和政権の王と同じ形式の古墳を築きました。班田収授法や国司の派遣は、後の律令時代の制度であり、古墳時代の大和政権による統治体制とは異なります。
問7	答え 3 大仙古墳（世界文化遺産）	5世紀の古墳時代中期に築造された大仙古墳は、全長約486メートルを誇る日本最大の古墳です。その圧倒的な規模と独特な形状は、当時のヤマト政権の強力な支配力を示すものと考えられています。2019年には、周辺の古墳とともに「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。
問8	答え 4 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、国際的な優位に立つため	5世紀、いわゆる「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に使者を送り、皇帝から「將軍号」などの称号を授けられました。これは国内での支配権を固めるだけでなく、当時対立していた高句麗に対抗するため、朝鮮半島における軍事的な指揮権を国際的に認めさせ、外交上の軍事的優位を確保する狙いがありました。
問9	答え 4 大王	ヤマト政権の首長は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。「天皇」という称号が正式に使われ始めるのは7世紀後半の天武天皇・持統天皇の時代からであるとされており、それ以前の古墳時代における指導者の呼称としては「大王」が適切です。
問10	答え 2 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。	渡来人は文字（漢字）の知識だけでなく、養蚕、機織り、土木技術、須恵器の製作など、当時の日本にはなかった高度な技術を伝えました。特に漢字を用いた文書作成能力は、ヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、大陸の諸国と外交交渉を行う上で欠かせないものとなりました。鉄砲は16世紀、稲作や青銅器は弥生時代以前に伝わったものであり、時期や内容が異なります。
問11	答え 4 自らの地位や権威を証明する称号	5世紀の朝鮮半島では高句麗が南下政策をとっており、ヤマト政権は百済や加耶（加羅）との関係を維持するために、中国の皇帝から軍事指揮権を含む官号（称号）を得る必要がありました。中国という巨大な帝国の権威を借りることで、国際的な立場を強めると同時に、日本国内の豪族たちに対する支配の正当性を主張しようとしたのが主な目的です。
問12	答え 2 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかったことは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。